

慰安婦問題関連の諸々

JJ1SXA/池

今、慰安婦問題が米国や国連を巻き込み、日本批判は世界的だ、先日、「河野洋平氏を提訴？ (14,Oct,2013 記)」と言う記事を書きましたが、現代史家の秦郁彦氏が、10月23日付・産経新聞「正論」で、(以下引用)…慰安婦問題が米国や国連を巻き込み、こじれにこじれた禍根は、いわゆる河野談話にあると言ってよい…(中略)…日本語特有の曖昧な表現を英訳に際し「整形」したこともあって、国際社会には「官憲等が直接これ(甘言、強圧による募集)に加担したことも」のくだりは強制連行を、「慰安所における生活は強制的な状況の下での痛ましいもの」の部分は性奴隷状態を、日本政府が認めたものと受け取られてしまった。…(中略)…つまり、河野氏はやってもいない犯行をやりましたと自白する冤罪事件を演出したわけである。…(引用終り)…と書いています、矢張り、河野氏の罪は重いか？

そもそも、慰安婦強制連行の話は、1983年刊行・吉田清治の「私の戦争犯罪・朝鮮人強制連行」から始まった、この本の韓国語訳を読んだ韓国人は激怒した。

1992年1月11日付朝日新聞は、「軍の関与を示す資料発見…」と報道、中央大教授・吉見義明が防衛研究所の図書館で発見した「軍慰安所従業婦募集に関する件」に基づいてのものだが、内容は報道の内容とは全く逆だった。

記事で、金学順という元慰安婦が名乗り出て、韓国の団体「韓国挺身隊問題対策協議会」が、彼女の体験の聞き取り調査を始めたという内容もあった。

追い討ちを掛けて、朝日新聞が1992年1月23日付夕刊「窓・論説委員会室から」で虚報を書き、韓国人の怒りを更に煽った。

吉田本の内容は、現地調査の結果全く無かったことが判明し、追及された吉田本人も事実では無いと認めた、また、金学順の話では、人身売買であって、「女子挺身隊の名で戦場に連行された」ということとは全く違うのに、朝日新聞は「挺身隊として連行された」と何故報じたのか？ 鍵は、この記事を書いた植村隆にあった、金学順の日本政府を相手取った訴訟を計画した韓国の団体「太平洋戦争犠牲者遺族会」の女性幹部の娘が、この植村隆の妻だったのだ(勿論韓国人)。

元慰安婦の老婆を日本国を相手取った訴訟に引っ張り出し、捏造ストーリーに裏付けを与えた、弁護士の高木健一、国連人権委員会に「sex slave」という言葉を持ち込み、国際社会にこの呼称を定着させた弁護士の戸塚悦朗(本人が、この呼称を定着させたと広言している)

名前の出てきた、吉田清治、植村隆、吉見義明、高木健一、戸塚悦朗等々の反日の面々がのうのうと日本社会で生き伸びているのが癪に障る、それと朝日新聞には猛省を促したい(確信犯だろうから、まあ無理でしょうが…)

(1,Nov,2013 記)